

# 岡崎学

岡崎を学び、岡崎を知り、  
岡崎について考える  
「岡崎学～岡崎を考える」

- 会場:コミュニティサテライトオフィス (松坂屋岡崎店6階)  
※ 12/23のみ 大樹寺 (鴨田町)
- 時間:10:30~12:00
- 受講資料代:1,000円 (8回通し・大樹寺拝観料含む)  
(学生は大樹寺拝観料(350円)のみ必要 ※ 当日証明できるものをお持ちください)  
※ 6回以上出席の方に修了証を発行いたします。  
※ サテライトへ直接申込みにおこしいただいた先着100名に  
昨年度の講演録を配布します。



お申込・お問合せ サテライト事務局 (松坂屋岡崎店6階)

TEL:0564-65-8561 FAX:0564-65-8565

## 10/21 土 岡崎の食文化について 愛知学泉大学 豎山 翠 名誉教授



岡崎といえば「味噌」と徳川家康。  
そのいずれにも共通するイメージは「質素」である。この質素と食生活を結びつけるとどんなパターンの食事になるだろう。  
これが岡崎を中心とする西三河地方の食生活研究の発端であった。  
今回は江戸時代の食事から栄養素の内容とバランスを調べた(推定)「家康をもてなした大根飯(めし)」農繁期の労働を支えた「一升飯(めし)の栄養」などの項目から食べ方の知恵を学びたいと思う。

## 10/28 土 森・水・自然を資産としたまちづくり 元額田町長 鈴木 啓允 氏



合併後の額田地区の役割は、美しい大自然とそこから湧き出づる清流を守り、岡崎の奥座敷にふさわしい癒しと憩いの地として、新生岡崎市民の皆さんと共有していくことにあります。旧町域の約90%が森林であり、本宮山を頂点に緑深い山々に抱かれ、母なる乙川のせせらぎを耳に、四季が織り成す大自然の営みはまさに「山紫水明」の里であります。悠久の時の流れの中で、各村々の先人達の純真な人柄から築きあげられた「日本人の心のふるさと」は農山村にあり、この心情を大切に、古き良き時代を思いおこし、住民参加型まちづくりを皆さんと考えてみたいと思います。

## 11/11 土 OKAZAKI WALKING MAP …描くことで見えてくるものがある… 人間環境大学 島崎 義治 教授



初めて訪れた岡崎は様々の優れた断片が豊かにあふれたすばらしい町であると感じました。その直感をもとに、今、町と直接向かい合い、断片を発見し、それをウォーキングマップという形に記録し、町を描き始めました。そこには町の特性やコンテキストが豊かな世界となって表われてきます。町づくりとは町の特性、コンテキストを継承し、町を重ねてゆくことであり、また、重ねてゆくために町を知り、描くことなのです。それは抽象的で観念的な、お決まりの言葉で表わされた岡崎では決してありません。もっと、もっと自らの町を新鮮な目でとらえ、真の町を描く必要があると感じます。そうした町を描くことから町づくりについて考えたいと思います。

## 11/25 土 人の動きから考える岡崎の魅力とにぎわい 岡崎市 助役 川嶋 直樹 氏



東京から引っ越し、岡崎市に住みはじめて2年が経過しました。本市は乙川などの自然環境や徳川家康に代表される歴史と文化にあふれる魅力的な町で、とても気に入っています。しかしながら、町は人通りが少なく、中核市としては静か過ぎ、なんとなく寂しいと感じているのは私だけではないように思います。西三河の中心都市であり、比較的豊かといわれ、魅力ある資源に恵まれた岡崎市がなぜ寂しいのか。今回は「交通」、特に「人の動き」に着目し、岡崎市の中心市街地を訪れる人々の1日の動きのデータ分析からまちづくりの課題抽出を試み、今後に向けて行政や市民が取り組むべきことについて考えてみたいと思います。

## 12/2 土 岡崎で子どもを育てるといふこと 岡崎女子短期大学 林 陽子 教授



昨年の合計特殊出生率(一人の女性が一生の間に生む子どもの数の平均)は、全国レベルで1.25と過去最低を記録しました。どうしてこんなに子どもが生まれなくなってしまったのでしょうか。また、岡崎ではどうなっているのでしょうか。  
子どもを生み育てることと経済的なことは、どれくらい関係があるのでしょうか。子育て支援の対策にはどんなものがあるのでしょうか。総じて、子育てがしやすい社会とは、どんな社会なのでしょう。ところで、岡崎は、子育てしやすい都市と言えるのでしょうか。今、岡崎で子どもを育てることの意味と積極性を考えてみたいと思います。

## 12/23 土 厭離穢土 欣求浄土 …家康公の平和思想… 大樹寺 責任役員 成田 敏樹 氏



戦国乱世に生を受け、幼少の時から人質生活を送り、祖父(清康)も父(広忠)も母(於大)も妻(築山)も子(信康)もことごとく乱世に奪われた被害者であった家康公。そして一度は大樹寺の先祖の墓前で死を決したが、登壇上人より「厭離穢土 欣求浄土」の意を授けられ、以来念佛將軍といわれる程佛教に帰依され、江戸時代265年の太平の世を築く礎をつくられました。家康公の平和思想の原点はこの大樹寺登壇上人との問答にあったといっても過言ではありません。  
※当日は、本堂での講演ののち、大樹寺の見学を行います。

## 1/13 土 ペン画家のみた岡崎の風景 …鳥瞰画の視点から… 工房スカラベ 柄澤 照文 氏



昭和24年生まれ。幼い頃の懐かしい思い出は、岡崎という町を考える上での原点となっている。30歳の頃、岡崎の地名や建物、年配の方々の昔話などに興味を持ち、身近な歴史を調べ取材し、ミニコミ紙「おかざきしんぶん」を発行。また、同時期、友人らと都市研究グループ岡崎を作り、「竜のさんぽ道」の提案や町の記録等を行った。岡崎市制70周年の時には、旧市街地を高い所から俯瞰したペン画を描き、岡崎文化史年表の編纂にも携わった。その後、三河出身の菅江真澄の足跡や塩の道をたどる旅などを通し、外から岡崎を見る機会が多かった。そして再び岡崎のスケッチを始めたところで、ペン画を描きながら感じたことをお話ししてみたいと思う。

## 1/20 土 今岡崎のまち育ては面白い …人もまちも元気になる極意… 愛知産業大学大学院 延藤 安弘 教授



岡崎には今、市民・企業・行政が協働するまちづくりが、康生地区をはじめ各地区にひろがりつつある。その現場でのイキイキした取組を紹介しつつ、全国他地区の先進事例と比較する。「幻燈会」という<ビジュアル講演>方式で楽しみながら、岡崎のこれからのまち育ての可能性の想いをひろげる。